



## リサーチセミナーを開催しました

9月30日（土）に、理数科1年生を対象に、第4回「リサーチセミナー」を実施しました。佐賀大学大学院工学系研究科 知能情報システム学専攻 只木進一先生に、「知能情報システム学科の紹介」と題して、数理科学・計算科学分野の研究方法の意味や様々な研究分野の概要、さらには「Dunbar 数の起源 数理科学からのアプローチ」や「高速道路の流量逆転現象」といった修士論文研究の事例紹介を話していただきました。



### 生徒の感想

- 「今まで『修士論文』という言葉は何度も聞いたことはありましたが、具体的な事例を説明していただいたのは初めてで、直に感じられてよかったです。」
- 「Twitter の例は身近で分かりやすかったです。私も今後、課題研究をする際は、なるべく身近なテーマや例を用いていきたいと思います。」
- 「『友達』とは抽象的できちんと定義できないものだと思っていましたが、研究においては、最低限の条件を付けて、誰もが納得するように定義することが必要なんだと思いました。」
- 「シミュレーションをするときも、数学的に考え、相違点を明確にして行うことが大切だと分かりました。」
- 「高速道路の流量逆転現象にとっても興味を持ちました。いろいろなことに対して規則をつくることで、効率よくものごとを行うことができるようになること分かりました。」

## 共創セミナーを開催しました



10月19日（木）に、理数科1年生を対象に、第2回「共創セミナー」を実施しました。NPO 法人唐津環境防災推進機構 KANNE 事務局 藤田和歌子先生に、「虹の松原の再生保全活動について」と題して、虹の松原の現状と保全の必要性、NPO 活動の取り組み内容、松の落葉や落枝の処理方法の開発についての事例紹介などを通して、NPO 活動における課題発見や課題解決の在り方等を話していただきました。

### 生徒の感想

- 「これまで何度も虹の松原の清掃活動に行ったことがあったので、とても興味深い話ばかりでした。活動には参加したことがあったけれど、これまでどのように守られてきたのか、松原の中にはどのような自然がしまっているのかなど、これまで知らなかった多くのことを知ることができました。」
- 「社会課題の解決のために活動をする、その中でたくさんの課題がまた出てきて、その課題の解決のためにまた考えて・・・と、ひとつの課題を解決するのはとても大変だということが分かった。」
- 「私は、利用しなくなった松葉をいかに効率よく利用するのかという問題点にとっても興味を持ちました。自分なりの解決法を考えてみたいです。」

## 課題研究中間発表会を開催します

11月2日（木）に、致遠館中学校体育館で、理数科2年生による「課題研究中間発表会」を実施します。数学・物理・化学・生物・共創の5分野、23班がポスターセッションを行います。